

第2 ペガサス サービス自己評価表（2017年12月実施）

当事業所では、提供するサービスの質について、保護者の皆様へのアンケート調査結果も踏まえ自己評価を行っております。指定基準を満たしたうえで、より良いサービス提供を目指し、自己評価の結果を公表することで、皆様に安心してご利用いただく一助となればと考えております。なお、この評価基準は、厚生労働省が定める「放課後等デイサービスガイドライン」の基準をもとに作成しております。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○		基準はクリアしているが、雨天時などは狭く感じ、子どもの状況に応じてトライアングルの部屋も使用している。屋外スペースは十分な広さがあり、遊具の雨天時利用ができると良い。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			人数及び資格等、基準以上の配置がされている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか			○	階段や室内の段差は多く、歩行が不安定な利用者には介助を要する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			事業計画の評価は、年1回行っているが、月間のプログラム（土曜デイなど）の振り返りが必要である。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			毎年、保護者向けアンケートを取り、保護者のニーズを聞き、活動に取り入れている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか			○	今後自己評価の結果を保護者向け通知や、広報等でのフィードバックが必要である。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	法人全体で年2回、第三者委員会でリスクマネジメントを中心に実施されているが、事業所としての第三者による評価の導入が必要である。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			法人内や外部研修の案内など、研修の機会は多くできるだけ参加するようにしている。
適切な 支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			保護者のニーズは、保護者面談も踏まえ、放課後等デイサービス（個別支援計画）の中で、ねらいや手立てに反映している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		ケース検討において、子どもの適応行動の状況について検討する際に参考にすることはあるが、独自に使用してはいない。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			保護者アンケートの結果を受けて、希望の多いものを活動に取り入れるように検討している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			職員個々の強みを生かし、季節に沿った活動内容など、様々なプログラムをチームで考案し、固定しないようにしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		○		利用時間や利用者に応じて、活動内容を工夫して支援にあたっているが、きめ細かな課題設定は十分でない。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			自己決定を大切にしながら、子どもの状況に合わせて集団活動も取り入れながら、社会性を身に付ける機会を設けている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			支援開始前には必ず打ち合わせを行い、役割分担や活動で留意する点などを事前に確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			個人記録を取りながら、その日の子どもの様子や保護者からの情報共有に努めている。

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		個人記録では、その日の子どもの言動と支援の内容をできるだけ正確に記録に残し、ケース検討や支援計画の振り返りの際に検証している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		年2回の計画の見直しと、必要に応じてケース検討を行い、支援方法などを見直している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○		休日や長期休暇を中心に、調理活動や工作活動も、外出活動などを取り入れ、様々な経験を積む機会を設けている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		主に計画作成担当者が出席し、必要に応じてふさわしいものが参加している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		学校への迎えの際にはできる限り情報交換を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○	医療的ケアを要する子どもはいないが、利用時に服薬が必要なケースは、事前に主治医からの指示書を提出してもらい対応している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		保育所等訪問支援の報告を受けたり、必要に応じて情報共有を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		必要に応じて情報共有を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		必要に応じ携を図っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	そうした機会はなく、今後の課題である。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	○		柏市のこども部会に参加し関係情報の入手や関係事業者との交流をしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		送迎時にその日の子どもの様子をできる限り伝えている。通院の結果などの報告もいただいている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○	今年度は勉強会の開催はなかったが、保護者からの相談があった際には、連絡帳や送迎時、電話等で相談に応じている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		利用契約時に行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		必要に応じて行っている。

保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		保護者会はペガサスと合同開催しているが、参加者も少なく、交流・連携は十分でない。第2ペガサスのみでの開催が必要である	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		苦情や相談があった場合には、迅速に対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		ご利用予定や活動の様子の紹介をニュース等で発信している	
	35	個人情報に十分注意しているか	○		注意して扱っている。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		子ども一人ひとりの意思伝達手段を尊重し、自己決定ができるよう配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		法人では青葉祭など、お祭りを開催している。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○		マニュアルはあるが、わかりにくく、周知も十分でない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			年に一度実施しているが、対象者が限定されている。訓練の事前のお知らせと、実施後の報告を行う必要がある。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			研修機会や情報共有を行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○		現在身体拘束を要するケースはないため特に行っていない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○		保護者の指示で対応しているが、医師の指示書はいただいている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○		ヒヤリハットの報告が不十分で、記録の仕方等に工夫が必要である。